



## 大阪部会(第 30 回)

日 時: 2012 年 10 月 13 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライト

### 【内容要旨】

第 30 回の大阪部会は、同志社大学大阪サテライトにて開催された。出席者は 11 名。

- (1) まず初めに、経済教育ネットワークの篠原代表および野間から 8 月に開催された「先生のための経済教室」の結果報告があった。開催地により多少のばらつきはあるが、のべ人数が 1000 名を超える盛況ぶりであり、アンケート評価も好意的なものが多かった。ただし東京での高校二日間については、大学教員の講演が多く、実践的な内容を期待する教員の要望には応えきれなかった面がある。
- (2) 報告を受けて、夏の経済教室の今後のやり方について議論した。たとえば東京以外のところでは中学 1 日、高校 1 日と時間が限られているので、それぞれ 1 日半にして 3 日間としてはどうかという案が検討された。しかし参加する教師の事情(研修扱いが認められるかどうかなど)や 8 月の行事日程などの理由で、現行の 1 日ずつでよいとする意見が多かった。また、各所で中学の最後に設けられている情報交換会の意義や進め方についても議論した。近年増加した新人教員やこれから新しい実践を試みようとする教員にとって、とくに有効性が高い、ただし交換会の意図や進め方を、事前に練って参加者に説明しておく必要があるということで、意見がまとまった。
- (3) 研修内容について画期的なアイデアが出てきた。大学研究者が専門的な話や時事的な話をした後、現場教員がそれを授業に活かした例を示し実践報告をする、という案である。逆に、現場教員が普段の授業例を示した後、大学研究者がポイントになる部分を解説したり関連した議論を紹介したりするという案も出た。いずれも、大学教員の講義や現場の実践紹介をばらばらに行うのではなく、セットにしたほうが遙かに有効だという考えに基づく。他の部会でも提案し、次年度の経済教室にどのような形で取り入れられるか、検討することになった。
- (4) 次に、今後予定されているワークショップの紹介があった。いずれもまだ調整が始まった段階ではあるが、福井、稚内、釜石での開催が計画されている。また、10 月の東京部会、京都部会につづいて 11 月に札幌部会が開かれる。札幌では、参加者が普段のテスト問題を見せ合い、どのような問題がよい問題なのかという点などについて議論する。年次大会は、3 月 23 日に同志社大学で開催されることが決まっている。労働問題を題材に「法と経済」「倫理と経済」を中心的テーマとする予定である。
- (5) 河原和之氏(立命館大学・関西大学中等部)より、「ネタ・ゲームを通じて見方考え方を培う経済の授業」と題する報告があった。そこでは、生徒の興味ある題材を用いて、基礎知識を習得し経済の見方考え方を育てることを意図した授業の実践例が、いくつか示されている。たとえばチリでの落盤事故を題材に「資源を公平に効率よく配分する」ことが経済の基本であることを学ばせる例が紹介された。この実践には元ネタがあり、菱沼宏一『幸せの経済学』岩波ジュニア新書などが参考にされている。しかしそれを中学校の授業に「落とし込む」手法が見所であり、いくつかの発問、グループ討議、資料読みなどが組み入れられている。その他にも「AKB と EXILE から所得について考える」「恋愛と投資～投資ゲームから考える」など、非常に参考になる例が紹介された。



(6) 丹松美代志氏(池田市教育委員会)より、裴光雄氏(大阪教育大学)が『実践学校教育研究』に執筆された論文の紹介があった。そこでは、韓国との比較もしながら「日本の小学校社会科教育の特徴と課題」(論文タイトル)が検討されており、公民的資質の育成などが特徴としてあげられている。

(文責 野間敏克)

次回開催予定： 12月15日(土)16:00~18:00(いつもと時間が違います)、場所は未定。